

平成25年度

事業活動報告書



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

I. 法人の概要

(平成26年3月31日現在)

法人の名称	公益財団法人吉野川紀の川源流物語
設立年月日	平成14年4月1日 平成24年4月1日名称変更し、移行したことにより設立
定款に定める目的	この法人は、「樹と水と人の共生」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行う。そして、これに必要な拠点施設や関連公共施設の維持管理・運営に関する事業を行い、源流域の自然環境保全活動に努める。これらの活動により、流域をはじめ都市部の人々と水源地域を結び、もってそれらの人々の公共利益に寄与することを目的とする。
定款に定める事業内容	この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。 (1) 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業 ① 「吉野川源流－水源地の森」体験学習プログラムの提供 ② 森づくり体験学習プログラムの提供 ③ 体験学習を通じた環境教育の実施及び支援 ④ 水源地域の環境保全にかかわる人材の育成 (2) 流域交流・啓発にかかわる事業 ① 水源地域の自然及び文化を介した交流行事の実施 ② 水源地域の環境保全の普及啓発のための行事等の開催、印刷物等の刊行、電子情報媒体の作成 (3) 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業 ① 水源地域及び流域における参加型観察調査会の実施 ② 「吉野川源流－水源地の森」自然実態調査の実施 ③ 源流部における斜面崩壊地での対策実験及び経過観察の実施 (4) 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業 ① 展示を通じて情報発信を行う施設の管理・運営 ② 源流部での体験活動の拠点となる森とこれに附帯する施設の管理 (5) 学習教材や、啓発関連物品等の販売 (6) 他団体からの依頼にもとづいてこの法人が構築する情報や技術によって対応可能な業務の受託 (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業 2 前項第1号から第4号までの事業は、公益目的事業とし、奈良県内で行う。
主たる事務所	〒639-3553 奈良県吉野郡川上村大字迫 590 番地の2

<p>役 員 等</p>	<p>評議員（五十音順）</p> <p>井上 正崇（大阪工業大学学長） 上林 哲士（川上村教育委員会次長） 浦西 勉（龍谷大学教授 元奈良県教育委員会） 霜上 民生（一般社団法人近畿建設協会理事長） 辻 正義（和歌山市水道局長） 長岡 雅美（奈良県水道局長） 野上 義己（橋本市上下水道部長） 野村 政樹（奈良県地域振興部長） 原見 仁志（和歌山県企画部地域振興局地域政策課長） 春増 薫（川上村議会議長） 東谷 八宗（川上村議会総務文教委員長） 森内 太（川上村地域振興課長）</p> <p>理事（五十音順）</p> <p>栗山 忠昭 代表理事・理事長（川上村長） 松村 悦治 代表理事・副理事長（川上村副村長） 森脇 深 業務執行理事（川上村水源地の村づくり課長） 辻谷 達雄（前 森と水の源流館館長） 西久保 智美（コミュニティライター） 橋本 裕行（奈良県立橿原考古学研究所事業計画課長） 畑田 道矢（奈良県地域振興部地域政策課長） 宮口 侗迪（早稲田大学教授） 横田 岳人（龍谷大学准教授）</p> <p>監事（五十音順）</p> <p>辰巳 八郎（川上村監査委員） 中島 誠（税理士）</p>
<p>主 な 会 議</p>	<p>定例理事会 6月13日（前年度事業報告及び決算の件ほか） 3月24日（次年度事業計画及び収支予算書の件ほか）</p> <p>定時評議員会 6月26日（評議員選任の件、理事の選任の件 前年度事業報告及び計算書類等の承認）</p>

II. 事業の状況

公益事業 I	環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業			
吉野川・紀の川の源流及び水源地域の自然環境や文化を資源とした環境学習及び体験等のプログラム実施を通じて、環境保全や保護についてともに考え、行動するきっかけを提供する。そして流域をはじめ都市部の人々と水源地域の交流を促進し、これらの地域の環境に対する意識の向上ならびに環境保全に寄与する事業。				
	時期	回数	参加数等	概要
水源地の森ツアー（一般公募型）	4・7・11月	4回	54名	「水源地の森」を案内
団体（企業含む）研修等での利用	通年	64件	1,929名	水源地の森散策や森づくり体験など
環境教育支援（学校対応）	通年	73件	4,099名	小学校から大学までの見学案内及び出張源流教室
源流人会等の活動（森づくりなど）	6・8月	2回	12名	一旦伐採された二次林での森林整理作業、「源流学」実技体験 指導者養成講座は、林道通行止により中止とした

公益事業 II	流域交流・啓発にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域をはじめ都市部の人々と相互に交流することによって、源流及び水源地域の自然環境や文化的価値を見出し、大切に守り育てていくことを目的とした啓発イベントや講座を実施する。そして自然環境について高い意識をもった人材育成につなげることで、これらの地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川源流まつり（ふれあいデー）	9月8日	1回	300名	川上村との共催で流域市町村物産展、映画「森聞き」上映会等を実施
源流のつどい	6・1・3月	3回	79名	「ホテルの夕べ」「氷瀑ツアー」 「高原のうまいもんづくり体験」
夏休み（館内）プログラム	7～8月	8種	255名	丸太切り体験、石標本づくりほか
流域連携各地へのPRキャラバン	通年	22回	914名	紀の川環境フェア等への出展
（一社）近畿建設協会支援 コミュニティデザイン講座	6・10月	2回	210名	コミュニティデザイナー-山崎 亮氏による住民主体型の地域づくり連続講座とワークショップ
川上村環境基本計画推進業務	通年	10回	130名	住民参加による環境クラブ活動と役場公共施設職員研修の企画・実施
機関誌『ぼたり』発行	7・11・3月	3回	-	源流人会会員、村内観光施設、国会図書館、村内図書館ほかPR用配布
平成25年度水資源功績者表彰 （国土交通大臣表彰）	8月1日	1回	-	流域平野部の住民との交流型の事業展開による啓発活動が評価

公益事業Ⅲ	源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業			
吉野川・紀の川流域の源流部における自然的価値及び文化的価値を大切にするため、流域をはじめ都市部の人々にも参加を求めながら調査・研究を行い、その成果の発信を行うことを通じて、これらの地域の環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
吉野川紀の川しらべ隊	8・9・11月	5回	205名	参加体験型でのコケ、水生生物・昆虫、トンガリなどの観察
水源地の森自然環境調査	4・5・7月	5回	10名	後期区域の昆虫調査等
専門家による調査・研究	4・6・9・11・12月	10回	45名	下層植生・トカサリ・森林療法、染色利用岩石など研究者の調査支援
「芽吹きของ砦」プロジェクト	—	—	—	前年度の大雨により崩壊後、本年度末に森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟の支援で一部新設したため経過観察を開始

公益事業Ⅳ	拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業			
水源地域における環境保全の啓発や環境教育を行う拠点となる施設やフィールドを一体的に維持管理及び運営を行うことで、地域環境保全ならびに向上に寄与する。				
	時期	回数	参加数等	概要
「森と水の源流館」の管理	通年	—	利用者 12,723名	日常の維持・管理、運営。定期点検、清掃、補修 企画展「へび展」等の運営
「吉野川源流—水源地の森」の管理	通年	59回	—	散策路周辺の見回り・点検、補修 (入山者 502名)
「水源地の森交流施設」の管理	通年	59回	—	水源地の森に付帯する休憩・管理施設の見回り・点検、補修

収益事業Ⅰ	ミュージアムショップ事業
拠点施設において、訪問の記念となる品とともに、源流及び水源地域の支援・PR並びに自然環境の保全・啓発等に寄与する関連商品の販売を行う。	
概要	
オリジナル読本・ポストカード、地域の自然、歴史・文化・伝承の書籍、環境に配慮した製品（洗剤など）、自然観察用品（ルーペなど）の紹介・販売、またオリジナル楽曲CD「源流の郷」や村内で採水・製造のペットボトル入湧水の販売を開始。	

収益事業Ⅱ	受託事業		
他団体からの依頼にもとづいて当財団が構築する情報や技術によって対応可能な業務を受託し行う。			
	委託者	時期	概要
和歌山市民の森づくり整備管理業務委託	和歌山市	7～12月	3haの管理作業
和歌山市民の森づくり体験学習業務委託	和歌山市	10月・11月	森づくり作業と源流学習会を併催。10月は荒天で代替プログラムを実施
水のつながりプロジェクト実施等に係る業務	川上村	6～11月	源流と平野部の小学校交流事業の企画・実施、報告書作成
「源流の郷」CD製作	環境保全促進和歌山市議会議員連盟	1～3月	次年度開催の全国源流サミットでの配布用仕様で300枚を準備
和歌山市民の森モニュメント広場法面崩土対策	環境保全促進和歌山市議会議員連盟	1～3月	丸太組工法による路肩補修や土留柵と植栽マットの敷設

公益事業Ⅰ 環境学習・体験プログラムの提供にかかわる事業

一般公募や団体の要望により企画する「水源地の森ツアー」のほか、源流地域の自然や文化にふれる体験型ツアー形式などによる研修の受け入れを行った。

【一般公募型 水源地の森ツアー】

4月2回、7月、11月 の三季に開催し、54名が参加。



【行政や企業などの団体研修等での利用】



4/11 奈良県職員研修（奈良県自治研修所）



10/11 森づくり体験（関西電力労働組合）



2/16 川上村ワークステイ（日本仕事百貨）



3/8 源流体験会（吉野川紀の川流域協議会）

【環境教育支援（学校対応）】

森林環境学習の受入れや「出張源流教室」などでの出前授業（右）などを実施



【源流人会の活動】

源流学の森づくりでは、間伐作業や二次林での林内整理などの作業を実施



また、交流を兼ねて橿原市昆虫館など、他団体が行っている「森づくり」活動の視察・見学会を実施した。



公益事業Ⅱ 流域交流・啓発にかかわる事業

源流地域の魅力を介して、都市部の人々との交流をはかる催しの開催や、各地に出かけてのPR展開を通じた普及啓発に取り組んだ。

【吉野川紀の川源流まつり】

9/8 川上村との共催により流域市町村、活動団体が参加し、物産販売やPRを展開。終了後に映画「森聞き」を上映。



【源流のつどい】

6月に「ホタルの夕べ」(左)、1月に「氷瀑ツアー」(右)を開催し、地元の人々とも交流。



【夏休み(館内)プログラム】

夏休み期間中「宿題応援!」を掲げ、「竹へび作り」(左)などのモノづくりや「石標本づくり」(右)などのしらべもの体験プログラムを展開。



【「ウチ」と「ソト」から、かんがえる あしたの「水源地の村づくり」

【コミュニティデザイン講座】

コミュニティデザイナーの山崎亮氏を招き、6月には役場職員や村民対象の講座、10月には一般向け講演会を開催。このとき9月に実施した地域おこし協力隊によるワークショップ取り組みや、活動が始まったの村づくり団体の紹介を通じた進行を行った。



【平成25年度水資源功績者表彰（国土交通大臣表彰）】

流域平野部の住民との交流型の事業展開による啓発活動が評価された。



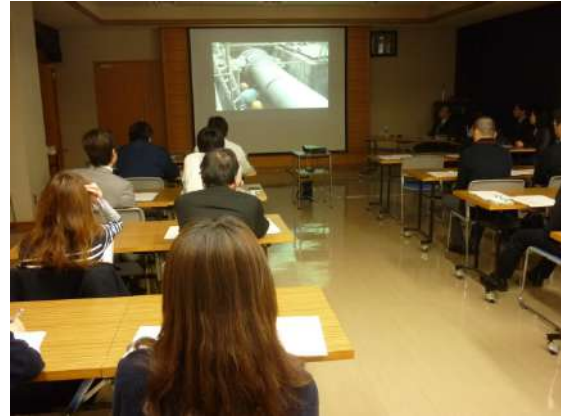
【流域連携各地へのPRキャラバン】

大和の水がめと奈良県営水道展（左）、全国豊かな海づくり大会プレ行事（右）など、流域各地の行事に出展し、PR・啓発活動を実施した。



【川上村環境基本計画推進業務】

重点プロジェクトの促進として、役場・公共施設職員の研修会や、村民を対象とした学習会を開催。和歌山市生活排水対策指導員を招き、職員や村の婦人との情報交換（左）や、奈良県水道局による水道事業の学習（右）、和歌浦漁港のしらす漁師を訪ねるなど、本財団のネットワークをいかした内容を企画している。



公益事業Ⅲ 源流域の自然や歴史の調査・研究にかかわる事業

流域をはじめ都市部の人々の参加を得て体験型の調査を行った。

【吉野川紀の川しらべ隊】

川上村内ほか、吉野山（左）・橿原神宮（右）などでの観察会を実施し、広域連携と誘客を図った。



公益事業Ⅳ 拠点公共施設の管理・運営にかかわる事業

【「森と水の源流館」の管理】

館の維持管理、案内や企画展・歳時展示などを行った。



【「吉野川源流—水源地の森」の管理】

【「水源地の森交流施設」の管理】

森林内の散策路及び付帯する休憩施設・管理棟の定期見回り、適宜散策路の補修作業（左）や啓発や注意喚起の対策（右）などとともに、外部業者への委託により林内の大がかりな補修も行っている。



収益事業Ⅱ 受託事業

【和歌山市民の森づくり体験学習業務】

10月は荒天により代替プログラム、11月には、森づくりも実施した。



【水のつながりプロジェクト実施等に関する業務】

大和平野土地改良区の農家作業の体験を通じて、源流部と平野部の小学生の交流事業の運営を受託した。



【オリジナルCD「源流の郷」製作】

森林環境保全促進和歌山市議会議員連盟から、26年度に川上村で開催する「第5回全国源流サミット」において記念品として配布する300枚を製作した。



パブリシティ（新聞ほか掲載記事）

住民が撮った紀の川

25日から和歌山で写真展



第一回吉野川・紀の川写真コンテスト写真展が25日～5月10日、和歌山市有本の「水ときらめき紀の川館」で開かれる。紀の川をテーマに流域住民らから寄せられた写真65点を展示する。

コンテストは同館で活動するNPO「きらめき紀の川」が河川環境に広く関心をもってもらいたいと初めて企画。昨年10月～今年1月で計85点が集まった。展示は最優秀賞を受賞した奈良県川上村の前羽朋子さんの「水源池を眺める」写真など。入場無料。午前10時～午後4時。同館(☎073・424・9292)。(入江直樹)

奈良新聞 13.5.16

奈良

地場産品をオークション

木工品やガラス製品

19日「吉野路黒滝」で



吉野青年会議所(吉野J.C、森口泰成理事長、24人は19日、黒滝村長瀬の道の駅「吉野路黒滝」で、木工品や手作りガラス製品など地場産品のせり売り「よしのオークション」を行う。売り上げは水源池保全に役立てられる。

初めての試みで吉野郡内の企業や木工、和紙、ガラス細工の工房など7事業所が協力。吉野ヒノキの積み木(定価9980円)やスマートホンカバー(アイフォン5用、同6825円)など、地元ならではの商品25件を公開オークションで販売する。

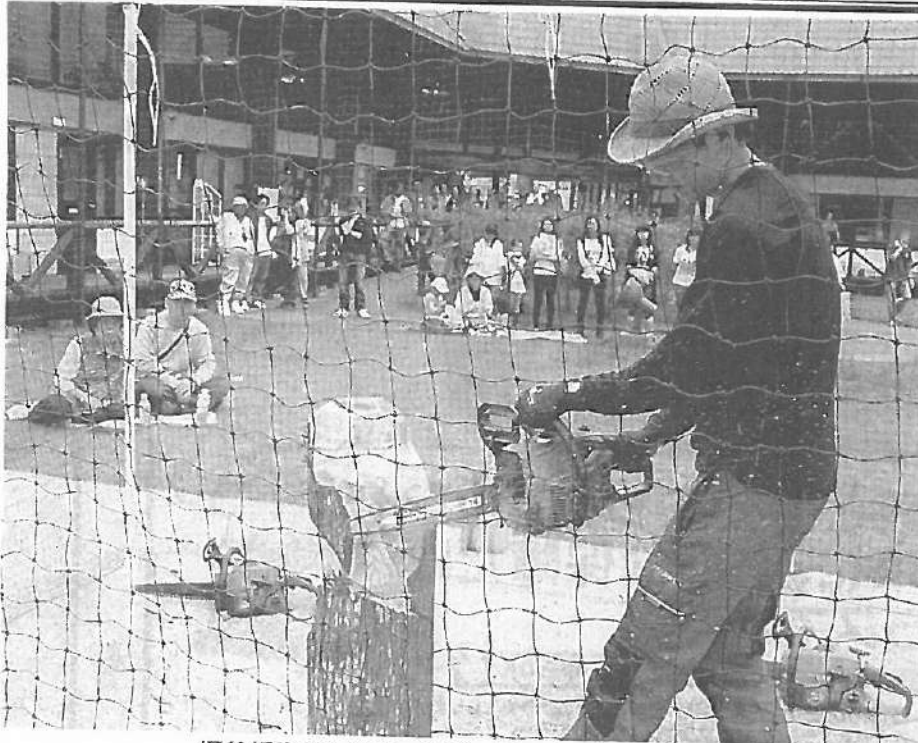
当日会場で作作されるチェーンソーアートも出品。オークションの売り上げは、川上村の森と水の源流館「森守募金」に全額寄付する。

同J.Cの地域振興イベント「吉野まるかじりフェスタ」の一環。

19日の「よしのオークション」に出品される地場産品

オークションは午後1時開始で同3時ごろまで。午前10時半から、地元7町村の商工会青年部が「山伏カレー」「焼きシイタケ」などの飲食ブースも開店する。

同J.Cは「吉野地域の魅力がいっぱいイイベントなので多くの人が参加してほしい」と呼びかけている。雨天決行。問い合わせは同J.C、電話0746(32)59688。



梶谷哲也さんのチェーンソーアート実演

木の魅力 た〜っぷり

地場産業の初企画

あす・道の駅吉野路黒滝

まるかじりフェスタ

吉野

吉野青年会議所(森口泰成理事長、24人)は、吉野地域の地場産業をアピールする初の企画「吉野まるかじりフェスタ」を19日午前10時半〜午後3時、黒滝村長瀬の国道309号沿い「道の駅吉野路黒滝」で開く。テーマは木材で、午後1時からのオークションには地域内の木工、手すき和紙、ガラス細工7社が木製品など25品目を提供する。印鑑入れ、杉の名刺入れ、ヒノキの積み木などがある。利益は川上村「水源地の森守募金」に寄付する。午前11時から、梶谷哲也さんによるチェーンソーアートがある。商工会青年部の飲食コーナーではイノシシ肉入り「山伏カレー」、葛餅、極太そうめん、ソパロールなどを販売。のこぎりを使った丸太(直径10センチ)切りもある。

【栗栖健】

木材の良さを見直して

黒滝

黒滝村長瀬の「道の駅吉野路黒滝」で19日、吉野青年会議所(森口泰成理事長、24人)が「木材の良さを見直して」と初めて企画した「吉野まるかじりフェスタ2013」が開かれた。

オークションには地域内の木工、手すき和紙、ガラス細工7社が木目を生かした花台、吉野杉の名刺入れ、ヒノキの積み木など21点を無償で提供。利益は川上村「水源地

吉野まるかじりフェスタ

の森守募金」に寄付した。吉野チェーンソーアートスクール「吉野町西谷」の梶谷哲也さん(39)は3台を使い分け30分で丸太に動物を彫り上げていく。オークションや丸太に動物彫刻た。のこぎりで床柱用の「しほ丸太」を切る体験も。商工会青年部の飲食コーナーでは、黒滝村のイノシシ肉入り「山伏カレー」などを販売した。

【栗栖健】

川上・森と水の源流館

川上村迫の森と水の源流館で、へびの生態を学べる企画展「へびがきょう13日から開かれる。骨格標本や模型パネル写真を通して同村の豊かな自然を紹介する。9月8日まで。

へびに学ぶ豊かな自然 きょうから企画展「へび」



アオダイショウの骨格標本と模型のへび（手前）＝12日、川上村迫の森と水の源流館

珍しいへびの骨格標本は、体長165センチのアオダイショウ。個人が制作、所有している。

シロマタラやニホンマムシなど本州に生息する8種類のへびをパネルで紹介。へびにまつ

わる俗信もまとめた。川上村には8種類全てが生息しているとい

「偏食家でもあるへびたちが生きていることが、村の豊かな自然を物語っている。へびを通して環境について考えてみてほしい」と話している。

15日は「へびふしほけ6人の座談会（午前10時）やお話ライブ（午後1時半）、コンサート（同2時半）、工作体験などがある。

入館料は一般400円、小中学生200円。7月15日は無料。午前9時～午後5時。水曜休館。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

森の源地の水 ツアー 吉野川の源流を歩こう

川上 川上村・森と水の源流館は普段、一般の人は立ち入れない吉野川源流の村有林をスタッフらが案内する「水源地

の森ツアー」を7月13日に計画し、参加者を募集している。「森」は三芝公地区の天然林740畝。村が保全のため購入した。夏の森

来月13日珍しいカエルと遭遇？

では、溪流で繁殖するナガレヒキガエルと遭遇できる可能性もあるという。ツアーは午前9時半～午後3時半。集合、解散は同村迫・宮の平

の同館。希望者には予約で午前9時、近鉄大和上市駅発の送迎バスが出る。募集は小学生以上の20人。参加費は0888。【栗栖健】

大人4000円、小中高生2600円。問い合わせ・参加申し込みは同館(0746)520888。

第4回全国源流サミット

一利根川源流のまちなみ in群馬県みなかみ町

みなかみ町で5日～7日に開かれた第4回全国源流サミット(同サミット実行委員会主催)は「源流一魅力と活用～」がテーマ。5日の全国源流の郷協識会会長サミットに続き、6日の全体サミットは記念講演やパネルディスカッションなどを行い、全国から集まった約350人が源流を生かした地域づくりなどについて探った。7日は興利根水源の森など3コースで体験型の見学会が行われ、参加した人たちが豊かな自然を体感した。

「源流」の魅力の発見と活用

歴史

国土保全の要

高橋 利根川の魅力について、歴史を踏まえて話してほしい。由明 利根川は下流に首都圏を控える。江戸時代に東遷と呼ばれる武蔵野と渡良瀬川とを流す。江戸を中心とした交通体系として導く物質を江戸へ運ぶ役割を果たし、経済的・文化的にも流域を結びつけていた。田畑を潤し、明治時代には水力発電が導入された。水力発電はさらに発展の魅力を持っていると



高橋さん

- バリエート 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課長 金尾健司さん
- 茨城県取手市長 藤井泰雄さん
- 日本河川協会会長 中村文昭さん
- 慶原案内クラブ代表 高橋裕さん
- 全国源流ネットワーク代表 高橋裕さん
- 東京農業大学教授 高橋裕さん
- 東京大学名誉教授 高橋裕さん



由明さん



林さん

高橋 上流と下流はよく結びつけられるか。金尾 全国各地で豪雨災害が発生し、大雨で土砂崩れや土石流などが起きている地域もある。国土保全の機能をしっかりと源流に持たせることが課題だ。高橋 中村さんは絵巻を描いて源流を回っている。中村 多摩川源流は流の名一つに源流の里の伝承や歴史・文化が表れていて尊敬の念を感じた。市販の地図には載っていない。地元の長老の頭の中だけに源流の歴史があった。記録して次世代に伝えるべきだ。

高橋 利根川は下流に首都圏を控える。江戸時代に東遷と呼ばれる武蔵野と渡良瀬川とを流す。江戸を中心とした交通体系として導く物質を江戸へ運ぶ役割を果たし、経済的・文化的にも流域を結びつけていた。田畑を潤し、明治時代には水力発電が導入された。水力発電はさらに発展の魅力を持っていると



藤井さん

水源地に生まれ「誇り」自然観を国づくりに

たぐはく18年間 源流絵巻を作りに誇り、自然とともに生

きました。ぜひ、現地に行ってみてほしい。

体験

感性育む農村

高橋 声の声を聞きながら、日本人の感性、感性を教えられるのが源流農村ではないか。藤井 茨城県取手市は2008年にみなかみ町と友都市協定を結び、親しく交流してもらっている。上流の水森の恵みを享受している立場だ。子どもたちが毎年、みなかみを訪れ、さまざまな体験ができる。高橋は大きい。私もラフティングに挑戦したが、頭の上からザツと水につかる感覚はほかで味わえない。



中村さん

林 源流を守ると言うのが、誰か守るのが。私は、訪れた人が源流の水を飲み、おいしいと感じることを守ることに努めると思っています。高橋 利根川源流は利根川の素原地区で始まる。農業は2013年13回見学会400人が参加した。「興利根水源」は歌を入れ、誰でも歌える歌になっている。水源地に生まれたと、誇りをもちたい。

高橋 中村さんが自然と日本人について話したように、日本人は特約の自然観を持っています。失われた日本が自然観をどれだけ持てたか、どう生かせるか、が国づくりに重要だと思う。



高橋さん

白書

高橋 昨年「源流白書」を作成する計画がある。いい案はないだろうか。金尾 河川法改正により、河川協働団体制度ができた。環境団体や自治会など、河川管理者と一緒に活動している団体を指定し、活動しやすい環境を整えてほしい。

藤井 私生まれ故郷は群馬で、源流を見てきた。水出たに泣かされたが、源流が懐い」と言う人はおらず、誇りに思っている。砂がたつてきても掃き掃除するのは当たり前。都心部へ行けば

ど、不都合が多い行政が無償で処理する意向があるが、知恵を絞らなければならない。由明 市民協働行政が対立するのは、選挙される。多くの知事候補は、下流に現状を語るには、と

現状伝えて悩

川の源流の町村をしっかりと伝えるべき。林 水がきれい、興利根湖は水がきれい、選定用へり来る。下流のみなかに源流にきて現状を知ってほしい。今、源流は危機だ。中村 小菅村のこと、小

学校の多た。友達のが帰った。下流のみなかみ、学校に足場になつて。金尾も、警察つかり責たい。防小中学校でない。

輝く未来

信じよう

町長と

実行委員長の岸良昌

みなかみ町長は「利根川源流」から

ルを行った。

同町は首都圏の水が

めとして利根川流域を

手万人の生命と暮らし

を支え、谷川長昭



豊かな自然が多くの歌人、俳句を産み出してきた歴史を紹介。人口減少や森林の低産など、厳しい現状を指摘しながらも「源流は国土保全や環境保全の最前線に位置し、源流の維持と責任はますます大切になる」と述べた。さらに「源流が衰え、大切にされる時代は必ず来る。希望を持って未来を信じて参加連携協働の源流の輝く力を進めよう」と力強く呼び掛けた。

「賢源」としての活用

水資源機構理事 甲村謙友さん

「賢源」としての活用

水資源機構理事 甲村謙友さん

水はなくてはならない。備

障しているからだ。水資源

は地域的・時間的に偏在しているのが問題。お金と似ている。

水の時間的偏在は

ダムで対応する。あと

きた貯めるときに出

す。雨が降ると川の流

量が増える。ダムから補

給して下流まで取水でき

るようになる。結果



地域的偏在はほとん対応しないか。輸送費用がたかたかとなる。

温暖化踏まえ対策

解決のいい事例が群馬に水だ。利根川上流から取水し、高低差を利用して水を運ぶようになった。1人当たりの飲み水は1日1.2リットル。むしろトイレ、風呂、洗濯

濯といった汚れを散らすに多く使い、水を汚している。一方、農業用水を使うと、光合成の式に表れるように水と二酸化炭素、光エネルギーからでんぷんという新たなエネルギーを作り、私たちの役に立っている。

温暖化踏まえ対策

水のエネギ利用では、日本は電力に占める水力発電の割合が7.1%で世界平均の半分。もう少し増やすことを考えるべきだ。

みなかのラフティング、カヌー、温泉のうちに水を生かした観光もある。東日本大震災以降、地震や津波が注ぎられているが、水害も忘れてはならない。近年は地球温暖化で嵐の強度が増し、豪雨や濁水の発生頻度が高まるなどの影響が出ている。従来の人口増や経済成長による水需要増などへの対応に加え、これからは雨の降り方が変わること前提に、水供給の安全や循環型の水利用などを考える必要がある。

連携

■下流も良さ知る

富林 漂流を守るのは日本人全体の課題だ。購買 取手から鮎子に至る下流の14市町村で利根川舟運地域づくり協議会を発足させた。水位変動を調整する機械組換えを通過するアットや白鳥の養蚕と舟運を楽しむなど下流にも良さがある。なつともらうことが大切。高齢化が進む中、市民が地域で仲間をつくり、みなかみ町を心のふるさと通えるようにする。また漂流運送を進めたい。

中村 高野川と筑後川は以前から連携していた。利根川も年前に利根川流域交流会を設立さん



ちくり、昨年9月に徳島市で日本三大奥流川の結核締結会開き、利根川流域交流会発足。大森が開かれる。

富林 さまざまな団体をコーディネートし、まとめることはあるが。

中村 多摩川の水源地の整備は、東京都制と小倉町など山梨県側で境の壁があった。が漂流から河口まで一緒に守ろうという取り組みが、70年代に始まった。河川管理者と市民企業大森が一緒になった地道な取り組みにより流域の市民と多摩川との関係が近くなった。

富林 懸念で活動する市民団体について教えてほしい。林 カヤ場再生のため下流域の人による森林整備水が年8回ほど活動している。私が窓口となり地帯に入る際は声を掛けたり活動内容を報告してもらっている。活動を辛抱した翌日は遊ばせ、ということも長年続けている。

※サミットは河川財団の河川整備基金と関東地域づくり協会、県企業局の助成を受けて開催された。

学校の入学式は人だいたった。表裏のない入学式に胸が痛んだ。この話をしたら、下流の人がその字を運れてきて、友達になること言ってくれた。漂流の悩みを都市にどう伝えたいか。漂流

て悩み共有

に足を運んでもらい、アランになつてもらうのが一番。金属ターゲットは子どもも、教科書に漂流の現状をつかり書いてもらってほしい。被災や国土保全の語は小中学校の教科書にあまり出てない。国策は教科書会



体験型の見学会 3コースに計約60人が参加し、7日に行われた。このうち、奥利根水源の森散策コースは、標高1400mのブナ林で奥利根の大自然に触れた。雨上がりの森は鳥のさえずりが響き、参加者がゆったりとした森の空気を楽しんだ。

JTB協定旅館連盟 法師・猿ヶ京・湯宿 地区会

お泊まりは歴史ある 三国街道の名湯旅館へ

長表館 美園荘 藤やしき野の花畑 湖城閣 猿ヶ京ホテル 湯元長生館 本伝 太陽館

Hotel Juraku

水上ホテル聚楽

みなかみ町湯原665 TEL0278-72-2521
http://www.hotel-juraku.co.jp/minekami/

猿ヶ京バンザー

日本一のウイング式バンザー 高さ最大62m! 常設では日本一!

11/18(明)まで開催中!

料金:1回目10,000円 (同日2回目4,500円)

ご予約 ☎0278-72-8133

Webサイトからの予約もできます! www.buneyjapan.com

みなかみバンザー(42m)とあわせてぜひ体験ください!!

谷川岳天神平 「星の鑑賞会」

夜、特別に運行されるロープウェイに乗って標高1300mのケレンテから漆黒の空に浮かぶ海天の星を眺めよう!

料金:大人2,000円 小学生1,000円 (未就学児無料)

毎月400名様予約制です。ご予約についての詳細は http://www.enjoy-minakami.jp

星の鑑賞会特別電話 ☎0278-62-0451 (10:00~15:00)

ホテルサンバード

自然と交響

TEL 0278-75-2321(代)

http://www.hotel-sunbird.com

月夜野 びーどろ パーク

SHOP・MUSEUM・FACTORY

千979-1305 群馬県利根郡みなかみ町後閑737-1 TEL0278-62-2211(代)

道の駅 水紀行館

利根郡みなかみ町湯原1661-1 ☎0278-72-1425
http://www.9.wind.ne.jp/mizukikou/

ガイドと行く 自然散策ツアー

お花を楽しむ 天神平 自然散策ツアー

11/24まで 毎日開催

8月の金・土・日曜日

ご予約、お問い合わせ: 水上温泉旅館協同組合 ☎0278-72-2611

温もりの宿 辰巴館

月夜野 上牧温泉

◆体を癒す温泉の温もり ◆心が和む人との温もり ◆旬を食す炭火の温もり

利根郡みなかみ町上牧2052 TEL0278-72-3055
http://www.tatsumikan.com

Minakami Kogen Hotel 200

www.minakamikogen200.jp

湯島オーホギヤンパル

涼しさがわっばい!

私ハム星の湯 ☎0278-66-1126
http://www.marimo-shimoyu.com/ 丹波(10:30~20:00)

UTDOOR JOINT ASSOCIATION 一般社団法人アウトドア連合会

利根郡みなかみ町石倉1596-62 ☎0278-72-8081
http://www.minakami-outdoor.com

水源地の森から「源流学」を発信 森と水の源流館（奈良県川上村）

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

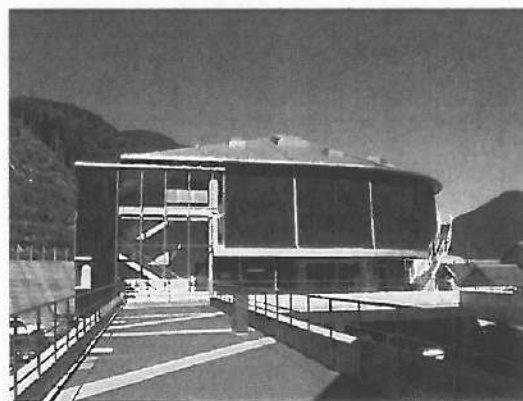


平成25年3月、1960年代から始まった大滝ダム建設がようやく竣工を迎えました。中下流域及び大和平野にとって文字通り「水がめ」の役割を果たすダムのある村をご存知ですか？ 奈良県川上村。紀の川（奈良県内では吉野川）源流に位置し、村の面積の95%が森林で、杉や松の優良材を産む吉野林業の中心地として栄えました。しかし一時は75000人を超えた人口も、現在は約16000人、高齢化率52%超となっております。村ではダム完成後を見据え、樹と水と人の共生を

キャッチフレーズに個性的で魅力ある「水源地の村づくり」を進めてきました。その方針を『川上宣言』としてあらわしています。第一番目に「私たち川上は、かけがえのない水がつくられる場に暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を流します」と謳います。

安全な水を安定して届けるには、ダム後背地の山や森が健全に保たれるか、いわゆる「緑のダム」の役割がコンクリートのダムとともに機能することの重要性について、流域や都市部の人々に理解と協力を求めていかなければなりません。これをわかりやすく具現化するため、村は原生林約740haを購入、「吉野川源流―水源地の森」と称し保全し、環境学習等のフィールドとして活用しています。

ビクターセンター的な拠点となるのが「森と水の源流館」です。現在、公益財団法人吉



森と水の源流館



水源地の森ツアー

野川紀の川源流物語が運営し、館からの情報発信とともに、ほんものの自然にふれる体験学習や交流プログラムを展開しています。普段は立入制限された原生林内を散策する「水源地の森ツアー」をはじめ、春には山菜を味わい、初夏の夕べのホタル、秋の紅葉、滝が凍りつく真冬の「氷瀑」など、四季折々の自然と、地域固有の行事や風習、郷土料理、史実や伝説などを交えたエコツアーを開催しています。水源環境保全のための森づくり活動や現地周辺の間伐材を有効利用した斜面崩壊防止の土留め柵の設置、募金呼びかけ（森守募金）なども進めています。

ここでの活動テーマは「源流学」。源流域の山の暮らしで培われてきた生きるための知恵や技にふれることで、現代が失ってしまったもの、また見失ってしまっようなものを学ぶことです。森づくりは木を伐る体験だけでなく、ノコギリの目立てやカマ研ぎなど道具の手入れも指導します。昔ながらの囲炉裏や五右衛門風呂を体験し、木質エネルギーや火との正しい付き合い方を考えます。さあ、みなさんも吉野川紀の川源流・水源地の村で、大きく深呼吸をしませんか。

森と水の源流館

電話：0746-52-0888 毎週水曜日休館

ホームページ：http://www.genryuu.or.jp

こんなにキレイな水があるんだ ~源流からの水の流れ~



6月24日(月)和歌山市立宮北小学校で森と水の源流館主催の出張源流教室が行われました。
講演では、「緑のダム」としての森林の役割、和歌山市と川上村の繋がりなどを説明しました。
また、源流の木を使ったキーホルダー作りなども行い、児童は夢中になって工作を楽しんでいました。
プロジェクターでの授業を児童は真面目に視聴し、源流の生き物たちが映るとキラキラと目を輝かせていました。
宮北小学校から、源流までさかのぼる間に、どんどん水が綺麗になっていく様子を見て、児童は「水ってこんなにキレイになるんだ。」と感心していました。

実物の鹿の角やドングリ、色々な種類の木を並べると、興味深々で触ったり、遊んだりしていました。
教室を終えて児童に話を聞くと、「国語で習ったもちもちの木が出てきたのが嬉しかった。」「鹿の角が大きくてびっくりした」などのコメントが返ってきました。
最後に源流館の木村さんは「この教室をきっかけに源流の森に興味を持ってほしい。そして、是非川上村に遊びに来てください」と児童に呼びかけました。



左上) プロジェクターを使った授業の様子です。
下) 自分たちで作った木工クラフトを片手に笑顔でポーズ
左) 出張教室ではおなじみの「学べる屋台」色々な森の教材やしかけがあるよ
左下) 鹿の角・・・でかっ!!!



川上村「吉野川紀の川源流物語」

水資源功績団体に選出

交流型事業が評価



水源地の保全に取り組み川上村の公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」(理事長＝栗山忠昭村長)が、国土交通省の平成25年度水資源功績団体に選ばれた。「水の日」の8月1日、東京都千代田区の同省で表彰される。

本年度の表彰は、水源河川の水質調査活動を20年以上継続している福島市立茂庭中学校など1個人10団体。吉

市民らが原生林の自然に触れる水源地の森ツアー(平成18年7月、川上村内)

野川紀の川源流物語は、流域住民への啓発など交流型の事業展開が評価された。吉野川紀の川源流物語は平成14年4月に発

足した。水源地保全目万8000人を超えた。動植物生息調査など調査研究機関としての役割も果たす。村民らも、源流地域の歴史、文化を継承する事業に協力。尾上忠大事務局長は「協力、応援してくださった皆さんに感謝したい。今後も流域のつなぎ役として交流の輪を広げ、水環境保全に寄与していきたい」と話している。

森と水の源流館が国交大臣賞

水源の大切さを伝える

朝日新聞 7.31

森と水の源流館(川上村)を運営する公益財団法人「吉野川紀の川源流物語」が、水資源行政の推進に顕著な功績のあった団体や個人を顕彰する水資源功績者表彰(国土交通大臣賞)を受賞する。

2002年4月に開館。高さ10メートルを超える巨木が立ち並ぶ日本最大級のパノラマや、紀の川(吉野川)の生物を展示する大型水槽などがある。

域の役割と河川環境に関する啓発活動を実施していることや、設立から10年間で利用、交流人数が約16万4千人にのぼっていることが評価された。

今年度は10団体と1個人に決まった。源流館は、流域の自然、水源地を守る

受賞については、紀の川の源流に位置する村内で、ピジターセンター「森と水の源流館」と、手つかずの原生林740を拠点とし、交流型の事業展開で流域平野部の住民向けに源流

表彰式は8月1日の「水の日」に国土交通省(東京)である。

く伝えることなどを目的に

流域の自然、水源地を守る

流域平野部の住民向けに源流



「吉野川紀の川源流物語」が国土交通大臣表彰 ～平成25年度「水資源功績者表彰」～

公益財団法人吉野川紀の川源流物語は、国土交通省から、水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績があったとして、「平成25年度水資源功績者」に選ばれた。

同財団がある川上村は、近畿の屋根といわれ、日本で最も雨が多い地域奈良県大台ヶ原に近く、吉野川の最上流に位置する。「水源地の森」を象徴とする川上村の森に蓄えられた雨水は吉野川となり、流域に豊かな恵みを与えながら、和歌山県へと流れ、紀の川と名前を変える。

■「水資源功績者表彰」

国土交通省が昭和54年から実施しているもので、平成25年度は個人1名及び団体10組が受賞した。同財団の受賞は、「紀の川（吉野川）源流に位置する川上村内のビジターセンター『森と水の源流館』と手つかずの原生林（740ha）を拠点とし、交流型の事業展開により、流域平野部の住民向けに、源流域の役割と河川環境に関わる啓発活動をしている。設立から10年間で利用・交流人数は約164,000人に上っている」功績が評価されたものである。



授与された表彰状と楯

■「吉野川紀の川源流物語」の活動

同財団は、「『樹と水と人の共生』を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、

体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行うこと」を目的として、平成14年4月に設立された。（平成24年度公益財団法人へ移行）

河川や県内の水道、農業用水の届く流域平野部の住民に向けて、「水源地の森」（原生林）ツアーや、一般参加による観察会形式の環境調査を実施している。

また、水源地地域の豊かな自然の大切さと、源流域に残る文化や人々の暮らしの技や知恵を『源流学』と名付けて、その体験を呼びかけている。特に子供たちに向けた森林環境教育では、奈良県・和歌山県内ほかの小学校等の受け入れや、「出張源流教室」として学校での出前授業を行っており、平成24年度には83件、4,729名が参加している。



森林環境教育体験プログラム



「水源地の森」（原生林）ツアー

■流域交流の拠点として

同財団の事務局では、「楽しい体験等を通じて、流域や都市部との連携・交流による水資源環境保全活動をより積極的に実施するため、市町村や企業などあらゆる力を集めてつなぐ、コーディネーター拠点としての役割を担いたい」と話している。

担当者からは、多くの人々の暮らしを支える水源地としての責任を持ち、下流域の人たちも巻き込んで、かけがえのない水と森を守り育てて行こうとする強い意志が感じられた。（奥 桂子）

落葉樹キビノクロウメモドキ

絶滅寸前種を植樹

川上匠の聚などに計6本

県の絶滅寸前種で、川上村に1本しか確認されていない落葉樹キビノクロウメモドキ(ウメモドキ科)の苗木3本が1日、同村東川の「匠の聚(むら)」に植樹された。環境省レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ種。

6年ほど前、県レッドデータブック策定の調査で成木2本が見つ

かった。1本は鹿の食害で枯れ、残った1本が黒い実をつけているのを委員の元中学校教諭、尾上聖子さんが発見。明日香村の自宅で種をまき、育てた。5年かけて高さ60センチに成長。「川上村で増やすことができれば」と、匠の聚や村立川上中学校などに計6本が植えられた。

匠の聚では、村立川上小学校の4、5年生計14人が植え付け。6年喜田敬真君(12)は「見たことのない木です。川上村は自然が豊かでうれしい。元気に大きくなってほしい」と話した。

森と水の源流館(同村迫)の木村全邦・企画調査班長(40)によると、キビノクロウメモドキは植生条件が悪く、土壌に追いやられて生き延びた種。「自然を守る大切さを感じてもらえれば」と願って



キビノクロウメモドキの苗木を植える小学生＝1日、川上村東川の匠の聚

絶滅防げ 児童が植樹

キビノクロウメモドキの苗木

県内では川上村で1株だけ確認され、絶滅が心配されている「キビノクロウメモドキ」の苗木3本を、村立川上小の4～6年生14人が同村東川、村匠の聚に植えた一写真。網に囲われシカの食害の心配が無い。

キビノクロウメモドキは、クロウメモドキ科で高さ2～3mの低木。九州、四国、本州の石灰岩地に生える。環境省は絶滅の危険が増大する種に分類。川上村は分布の東限で、2008年の調査では2株



確認できたが、その後に1株はシカの食害などで消えた。県では絶滅寸前種。今回、植えた苗木は、県レッドデータブック策定分科会委員の尾上聖子さんが調査時、残った1本から実を採取し、自宅で発芽させたもの。「川上村に戻りたい」と6本を村森と水の源流館に寄贈した。

植樹を指導した同館の木村全邦・企画調査班長は「こんな貴重な木があることを広く知ってもらいたい」。残り3本は川上中などに植えた。【栗栖健】

ドングリと人に歴史あり

川上の源流館 遺跡出土の実も展示



形や大きさの違うドングリを見比べる子どもたち
=11日、川上村迫の森と水の源流館

川上村迫の森と水の源流館で企画展「ドングリ」が開かれている。木の実の種類や人との関わりを掘り下げ、身近な自然に向く目を養う。来月16日まで。20種類の実の見分け方を実物で紹介し、葉の標本もある。奈良市中賞町の縄文遺跡・中賞柿ノ木遺跡

では、約3000年前のツクバネガシの実が出土。土を掘った穴に6700個以上が蓄えられていた。

この実の一部や、川上村の宮の平遺跡で見つかったドングリの皮を割る石器など、考古資料も展示している。

同館の成瀬匡章さん(39)は「人間は昔からドングリの木や実を大切に活用してきた。森に入る機会が減った現代人に興味を持ってもらえれば」と話している。

30日には、橿原市の橿原神宮森林遊苑のドングリを調べるイベントが行われる。定員20人。参加費500円。開館時間は午前9時

午後5時。水曜休み。入館料は小・中学生200円、大人400円。問い合わせは同館、電話0746(52)0888。

毎日新聞

2013年(平成25年)12月18日(水)

絵馬の工作教室

21日、考古学研博物館

来年の干支「午」にちなんで絵馬を作る工作教室「吉野杉で絵馬をつくる」が21日、

県立橿原考古学研究所

附属博物館(橿原市畝傍町)で開かれる。オリジナルの絵馬を作っ

て、願いごとや新年の抱負などを書く。絵馬の始まりは、かつて丹生川上神社(吉野郡)で雨乞いや雨止め祈願に神馬を奉納していたが、後に生きた馬の代わりに木の板に描いた馬を奉納したととされる。

工作教室は、21日開催の特別陳列「十二支の考古学―午―」の関連行事。森と水の源流

館(川上村)の成瀬匡章さんが講師で、県内

林業の低迷で従事者が減り、地域の文化存続

などを考える機会にしたいという。希望すれば、

絵馬は丹生川上神社(上社、中社、下社)で巡回展示され、その後

に持ち帰れる。参加費無料で対象は小学生以上。午前10時

正午、午後1時30分

の2回、先着各30人。申し込みは同博物館(0744

・24・1185)。

【矢追健介】



吉野杉の板に絵を付けた絵馬の例
―橿原市役所で

工作教室でつくる予定の絵馬＝榎原市



吉野杉で絵馬つくろう

榎考研 博物館

県立榎原考古学研究所付属博物館（榎原市畝傍町）は21日、来年の干支（午）にちなみ、工作教室「吉野杉で絵馬をつくらう」を博物館で開く。吉野産のスギ・ヒノキを使ったオリジナルの絵馬をつくり、願い事や新年の抱負などを記す。

博物館によると、神社に絵馬を奉納する習慣は、吉野郡の丹生川上神社に

雨乞い、雨止めの祈願をする際、神馬を奉納したのが始まりと伝えられる。後に生きた馬の代わりに木の板に描いた絵馬を奉納するようになったとされる。

21日から開催予定の特別陳列「十二支の考古学―午―」の関連行事。吉野川

希望者の作品 丹生川上神社 巡回展

上流域の林業が低迷し、人口が減少。地域文化の存続などが厳しくなっている現状を考えてもらおうと計画した。講師は森と水の源流館（川上村）の成瀬匡章さん。希望者の絵馬は丹生川上神社（上社、中社、下社）に巡回展示。後に持ち帰ることもできるという。

参加費無料。10～12時、13～15時の計

2回。各回30人で先着順。問い合わせは博物館（0744・24・11885）へ。

産経新聞

産

オリジナルの絵馬つくろう



榎考研付属博物館 21日に教室、参加者募集

榎原考古学研究所付属博物館（榎原市）は21日開幕

の特別陳列「十二支の考古学 午」にあわせ、同日午

前10時と午後1時から工作

教室「吉野杉で絵馬をつくらう」を開催する。小学生

以上の参加者を募集している。

絵馬づくりは、川上村の

「森と水の源流館」の成瀬

匡章学芸員が指導。吉野杉

の杉板（縦10センチ、横15センチ）

を使い、オリジナルの絵馬

を写真で完成させる。

定員は各回30人。参加無

料。完成した絵馬は、希望

すれば、川上、東吉野、下

市の3町村にある丹生川上

神社（上社、中社、下社）

で巡回展示され、その後持

ち帰ることができる。

問い合わせは榎原考古学

研究所付属博物館（0744・24・11885）。

平成25年(2013年)12月18日 水曜日

◆川上村で山崎亮氏講演会 26日13時半～15時半、川

上村宮の平の川上総合センターやまぶきホール。全国の過疎地で、その地が抱える課題を住民が主体となって解決するコミュニティデザインという手法がある。それに

よるプロジェクトを数多く手がけている山崎氏が「人がつながら しくみをつくろう!」と題して講演。入場無料。問い合わせは「森と水の源流館」(0746・52・0888)。

奈良新聞

平成26年(2014年) 1月12日 日曜日

第2社会

10

風習を次の世代へ

川上村 山の神まつりを再現

川上村の水源地の森で11日、山を守る人々の民俗行事「山の神まつり」が再現で公開された。県内外の計17人が参加した。吉野川の源流で村が保全する約740畝の水源地の森の入り口に祭られた三之公山の神



山の神に玉串をささげる参加者11日、川上村神之谷

は、醜い顔をしていたイワナガヒメ。美しい妹と比べられることを嫌ったが、気力と体力で勝ったという。

この日は、7日に行った神事を再現。鏡もちやオコゼなど海山の幸を供え、森と水の源流館顧問の林業辻谷達雄さん(80)が祝詞を読み上げた。

里山保全NPOの大和高田市、西川阿樹さん(36)は「山の仕事は気象やけがなど危険が多い。自然を敬い、神を祭り、安全を祈ったのだから。作法などを習い覚えておきたい」と話した。

午後には杉玉作りを体験した。村内では、林業不振や高齢化で山の神をまつる習慣も途絶えがちという。辻谷さんは「若い世代に知ってもらい、残していきたい」と願った。

豪華「門杉」で迎春

吉野スギで 正月飾り

川上・源流館

川上村迫の「森と水の源流館」の玄関前に地元・吉野スギを使った特製の正月飾り「門杉」が登場した。1月7日まで飾られる。

「門杉」の特徴は中心に竹を使わず、樹齢約30年の吉野スギの間伐材を3本そろえて立て、高さ約2・7メートル。後方に青々としたスギの枝葉を添えた。ユズリハなどの縁起物もほとんど村内で調達して



吉野スギの間伐材を利用した森と水の源流館特製の「門杉」=28日、川上村迫の森と水の源流館

水源地域の保全活動

に取り組む同館が、間伐材の利用促進や森林

環境を考えるきっかけにと5年前から毎年製作。今年は山の実りが豊作でドングリなどが多く、南天の赤い実もたくさん残ったため豪華な飾りになった。

来年は、同村で全国源流サミットや豊かな海づくり大会が予定されており、同館は「これまで流域交流が結実した実感がある。次のステップに進み、源流の営みを発信していきたい」と意気込んでいる。年始は4日から。門杉は休館中も見学できない。

奈良新聞 13.12.30



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語

〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平

電話 0746-52-0888 FAX0746-52-0388

<http://www.genryuu.or.jp> e-mail: morimizu@genryuu.or.jp